



雪

Yukigata

形

大町山岳博物館

OMACHI Alpine Museum

雪形とは



「雪形(ゆきがた)」とは山の黒い岩肌(いわはだ)と白い雪とによって形づくられる模様(もよう)のことで、かつては「雪絵(ゆきえ)」とか「残雪絵(ざんせつえ)」などと呼ばれていました。雪形には2種類あります。

ひとつは降りつもった雪や残雪によって描(えが)き出される「白い雪形」で、もうひとつは残雪の中に山肌(やまはだ)の色を浮(う)き立たせる「黒い雪形」です。

雪形紹介



春、雪融(ゆきど)けの時季になると、北アルプスの東斜面に現われるさまざまな雪形を見ることができます。古くから言い伝えられている伝統的な雪形だけでも北アルプス全体では30弱、全国では300ほど出現するといわれています。

ここでは、山と里と人の暮(く)らしが足なみをそろえていた時代から伝わる雪形のうち、安曇野(あづみの)から白馬村(はくばむら)周辺で見ることのできるいくつかを紹介します。

■ 小蓮華山(これんげさん)・乗鞍岳(のりくらだけ)の雪形

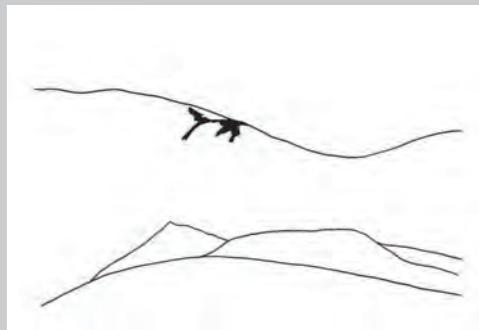
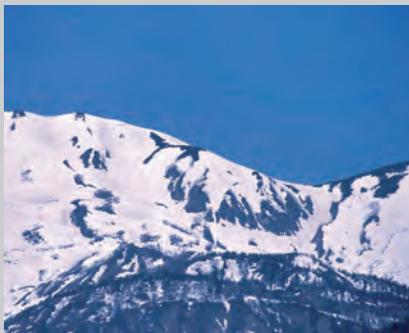
見頃：4月中旬～5月中旬 撮影地：白馬村深空



白馬岳の支尾根(しおね)ともいえるこのふたつの山の南面には、数多くの雪形が現れます。向かって左から「種まき爺さん」、「婆さん」、「種まき爺さん」、「仔馬(こま)」、「嫁岩(嫁菱・よめびし)」、「鶏(とり)(尾長の鶏)」、「種まき爺さん」の雪形が伝えられています。

■ 小蓮華山(これんげさん)の仔馬

撮影地：白馬村深空

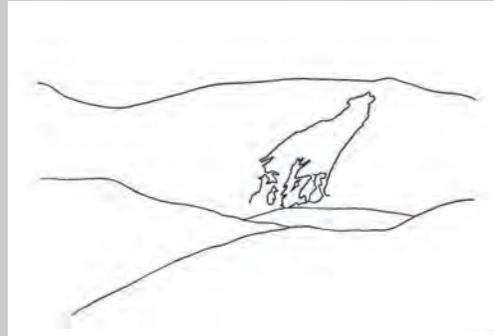


小蓮華山の主稜(しゅりょう)の東端、雷鳥坂(らいちょうざか)にあたる稜線(りょうせん)の下に黒く出ます。これこそが、かつて代かきの適期の目安とされた雪形だったという説があります。

白馬岳の「代かき馬」が長期間、比較的变化のない姿を見せるのに対し、ある日を境に急に胴体(どうたい)が結びついて馬の形を見せる「仔馬」のほうが、実際の代かきの目安になったのだともいいます。

■ 乗鞍岳(のりくらだけ)の「鶏(とり)」

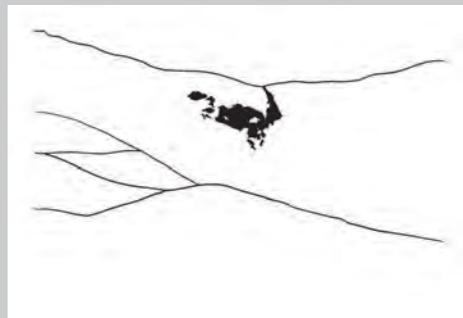
撮影地：白馬村深空



小蓮華山・乗鞍岳に現われる雪形のうち最も識別が容易で、大町市街地からも遠望できるのが乗鞍岳頂上直下に白く浮き出る「鶏(尾長の鶏)」です。この雪形については、「カモシカ」に見立てる人も多いです。確かに四肢(しし)と角(つの)も認められ、説得力があります。

■ 白馬岳(しろうまだけ)の「代かき馬(しろかきうま)」

見頃：5月初旬 撮影地：白馬村瑞穂

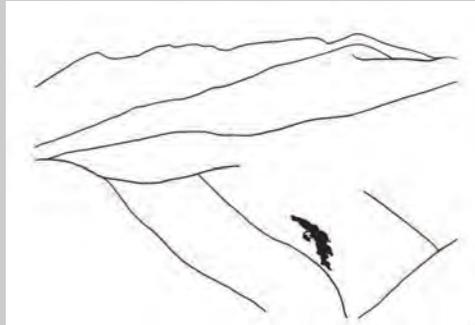


白馬岳は雪形にちなんで名づけられた山の代表格です。雪形は小蓮華山方面へ稜線を下った三国境(さんごくさかい)の下方に黒く現われます。まさに障害物を飛び越そうとする躍動感あふれる農耕馬の姿です。

かつて田植えの準備である代かき作業の適期を知らせる雪形として、その役割は大きかったといわれます。

■ 八方尾根 (はっほうおね) の「手斧打ち (ちやうなうち)」

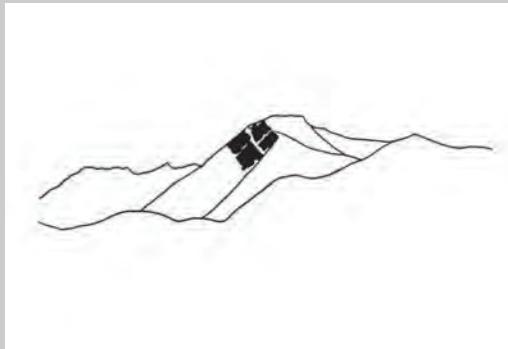
見頃：5月初旬 撮影地：白馬村瑞穂



八方尾根の南面に現われます。手斧(ちやうな)とは大工道具のひとつで、木材を荒削(あらけず)りするのに使う、柄(え)の曲がった斧(おの)のこと。腰(こし)を少し折り曲げながら、手斧を打ち込んでいるような姿に見える人形(ひとがた)の雪形です。見つけにくく、短期間で消えてしまう雪形のひとつです。

■ 五龍岳 (ごりゅうだけ) の「武田菱 (たけだびし)」

見頃：4月初旬 撮影地：白馬村深空



かつてこの地を支配した武田信玄の紋所そっくりの雪形が頂上直下の岩壁に現われます。この雪形は「割菱(わりびし)」「御菱(ごりょう)」とも呼ばれ、山名の由来はこの「御菱」にちなむともいわれます。また、この地ではかつてそそり立つような急峻(きゆうしゆん)な岩壁を“ヒシ”と呼んでいたようで、地形と雪形が一致して面白いです。

■ 鹿島槍ヶ岳 (かしまりがたけ) の「鶴(つる)」と「獅子(しし)」

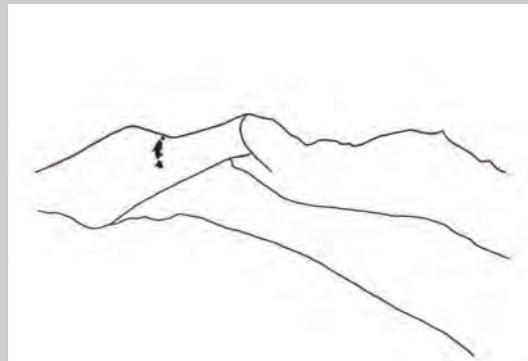
見頃：4月下旬～5月中旬 撮影地：山岳博物館



「鶴」は南峰直下、「ダイレクト尾根」と呼ばれる山頂から真下にのびる尾根に、首を伸ばし飛び立とうとしている姿をして現われます。残念ながら鶴らしい長い足はなく、アヒルかガチョウのようです。一方「獅子」は吊(つ)り尾根の直下に鶴に向かって山をかけ下る姿で現われます。

■ 爺ヶ岳 (じいがたけ) の「(北の) 種まき爺さん (たねまきじいさん)」

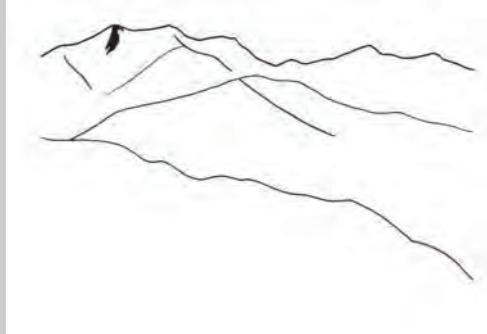
見頃：4月中旬～5月上旬 撮影地：山岳博物館



種まきをする人に見立てた雪形は各地に伝えられていますが、山名として今に残る爺ヶ岳の「(二人の)種まき爺さん」はその代表的存在です。これは大町市街地中心に伝えられている爺さんで、南峰と中央峰の鞍部(あんぶ)直下に現われます。市街地から南へ行くほど見えにくくなります。

■ 爺ヶ岳(じいがたけ)の「(南の) 種まき爺さん(たねまきじいさん)」

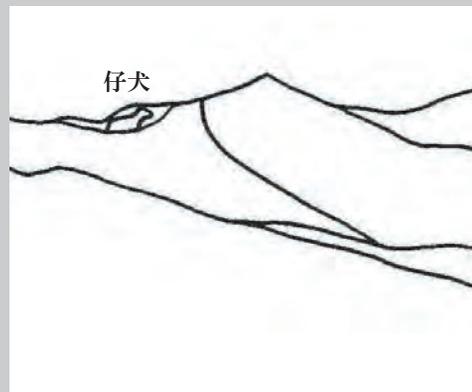
見頃：3月下旬～4月下旬 撮影地：池田町 高瀬川大橋



もうひとりの爺さんは安曇野南部を中心に伝えられる雪形で、北の爺さんより早く南峰直下に現われます。また、田淵行男(たぶちゆきお)さんの著書『山の紋章 雪形』によれば、本峰直下には爺さんに「ひと足遅れて応援に馳せ参じる『婆さん』と称(しょう)している」雪形も伝えられるとのこと。

■ 東天井岳(ひがしてんじょうだけ)の「仔犬(こいぬ)」

見頃：6月上旬～下旬 撮影地：池田町 南端

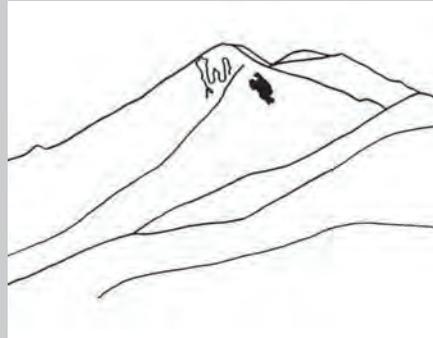


横通岳(よこどうしだけ)と東天井岳の山頂をつなぐ稜線の小さな鞍部越しの斜面に現われます。白く残された雪によって、白色をした犬のこどものような可愛い姿が形作られます。この雪形は、麦刈りの時期を告げるものだともいいます。安曇野からは、窓状になった鞍部からしか望めないため、この雪形が見える範囲は限られます。

■ 常念岳(じょうねんだけ)の「常念坊(じょうねんぼう)」と「万能鋏(まんのうぐわ)」

見頃：常念坊・3月下旬～4月中旬、万能鋏・5月中～下旬

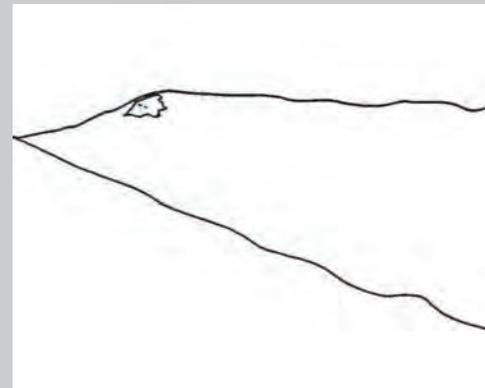
撮影地：安曇野市穂高 穂高カントリークラブ



「常念坊」は前常念頂上の斜(ななめ)め右下に黒く現われます。適期には黒染(そ)めの衣(ころも)を着た僧(そう)が合掌(がっしょう)している姿に見えます。三本歯の「万能鋏」は常念坊の向かって左に遅れて出現します。写真では向って右に出た歯が一本余計ですがやがて消失します。

■ 蝶ヶ岳(ちょうがたけ)の「蝶(ちょう)」

見頃：5月上旬～6月上旬 撮影地：安曇野市豊科 スイス村



平地から見てなだらかな稜線が落ちる南端に独立して大きく現われます。安曇野から見える雪形の中でも最も長命な雪形のひとつです。中央部の“背筋”がほどよく割れて完成をむかえ、やがて様々な黒い斑点(はんてん)を広げて徐々に消え、雪形の出現場所は常念山脈随一(ずいいち)のお花畑となって本物の高山蝶(こうざんちょう)の舞台となります。

雪 形

発行日 2007年11月11日 発行
発行・編集 市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町8056-1
TEL/0261-22-0211 FAX/0261-21-2133
E-mail : sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL : <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

※ 本文中および裏表紙等には日向梓氏作成の「あずきフォント」
やchiphead氏作成の「しねきやぶしよん」を使用しています。



大町山岳博物館

OMACHI Alpine Museum